

いきもの広場

① ミツボシキリガの幼虫



円内の写真のように、エノキの葉をふたつおりにした巣を作り、中にひそんでいます。エノキの葉を食べ、40mmほどにまで成長します。

② アオスジアゲハの卵



クスノキの新芽に卵が産み付けられていました。もう黒い小さな幼虫になっているところでしょう。アオスジアゲハは、競争相手のいないクスノキを食草に選びます。

③ アズマヒキガエル



昼間は、板の下や、枝を積み上げた隙間などに隠れています。繁殖期以外は、ほとんど水に入ることはありません。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。5月になって、緑が濃くなり、生き物の種類と数が増えてきました。



④ エゴツルクビオトシブミの揺籃



オトシブミの仲間は、葉を巻いてその中に卵を産みます。幼虫はその「ゆりかご」の中の葉を食べて成長し、やがて成虫になり出てきます。

⑤ チャミノガの幼虫 (ミノムシ)



長さ 25mm ~ 40mm くらいの蓑の中に幼虫がいます。6月から7月くらいに成虫になります。オスは羽を持って飛ぶことができますが、メスは一生ミノの中で過ごします。

⑦ アズマヒキガエル



3月おわり頃に卵からふ化しました。後ろ足・前足とも生えて、続々と上陸しています。

⑥ クビキリギス



成虫で越冬し、5月から6月にかけて産卵します。口の周囲が赤いのが特徴です。緑色型と褐色型がいます。